



連載 資産運用「茶飲み話」(24)

岡本 和久

人生は積立投資

命に時間という要素が加わったものが「人生」です。お金に時間という要素が加わったものが「投資」です。そもそも、お金というものは「ご縁のネットワーク」を流れているものです。そして、そのご縁のネットワークのなかでどう生きるかということをお金は教えてくれます。



長期間にわたる投資で有効な方法として積み立て投資があります。誰も相場の短期的な動きなどわかるものではありません。ですから、買付タイミングの時間分散を図る。時間分散のはかり方として人間がタイミングを判断するのではなく、一定のフォーミュラを作ってその通りに投資をしていく。これがフォーミュラ投資で、その代表選手がドルコスト平均法です。

ご存じの方が多いと思いますが、ドルコスト平均法というのは事前に決めた金額を、例えば毎月25日というように定期的買い付けて行こうというものです。この方法の効果は、株価や基準価格が安いときにはたくさんの株数(口数)が買え、高いときには少な目に買うということが自動的にできるということです。

人間の判断はどうしてもマーケットの短期的な動きに左右されてしまいます。結果として高いときにたくさん買い、安いときに少なく買うという本来の合理的な投資とは逆のことをしてかしてしまいがちです。ドルコスト平均法はそのような間違いをフォーミュラという形で避けようというものです。

「時は金なり」という言葉があります。我々は毎日、24時間、「時」という資源を投資しているのです。毎日、毎日、それを続けていくことで人生が形成されて行きます。長い人生の過程では良い事も悪い事も起こります。ちょうど、人生を通じての資産運用においてバブルもあればクラッシュもあるのと同じです。

いま、苦しいことが起こっていたらそれはとても良い事なのです。なぜなら、失敗や苦しみに学ぶことは、成功や楽しいことから学ぶことよりもはるかに大きいからです。つまり、同じ一日、24時間で苦しいことが多ければ、その分、学びが大きいのです。楽なときは学びが少ない。これはドルコ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

スト平均法で価格が安いときは多目に、高いときは少な目に買うというのと同じです。

このようにして毎日、一定の時間を投資し、苦しい時期や楽な時期を経験しながら人生の豊かさや幸福感が積み立てられていくのです。たくさんの失敗の経験があるほど、結果として自分のなかにはたくさんの学びが貯まっていく。投資はいろいろな面で生き方を教えてくれるものだと思つづく思います。

投資、本音と現実

株式を売買するほとんどの方の「本音」は、①できるだけたくさん、②できるだけ早く、③できるだけ安全に儲けたいということでしょう。しかし、投資収益とは、①そこそこの利益を、②長い時間をかけて、③リスクを取った見返りに与えてもらえるものです。これが証券投資の現実です。

つまり、証券市場に参加する多くの方の本音と、証券市場が与えてくれる現実の間に大きなギャップがあるのです。三つの「本音」をすべて満たすことはできません。そこで何かを犠牲にしなければならぬのですが、多くの方は、「できるだけたくさん、できるだけ早く」を優先させて、「できるだけ安全」を後回しにします。

「株式投資はリスクが大きい、だから、できるだけ短期で売買した方が安心だ」と考える個人投資家が非常に多いのです。しかし、この論理は明らかに誤りです。正しくは「株式投資はリスクが大きい。だから、大きな利益を狙うのではなく、そこそこのリターンを長い時間をかけてとる」ことが必要なのです。

企業が成長するには時間がかかります。少なくとも投資先企業が成長し、株主が企業に保有する資産の価値を高めてくれるだけの時間的余裕を与えなければ育たないものです。短期間では株主価値は大きく増加するものではありません。

流通市場における短期の値幅取りは、Aさんがある銘柄を安く買い、それをBさんに高く売り、BさんはCさんにさらに高い値段で売ることで実現します。しかし、Aさんをお父さん、Bさんをお母さん、Cさんを息子と考えればこの家族全体ではこの取引で儲けは生じていません。では、市場に参加しているすべての投資家が家族だったらどうでしょう。いくら売買があっても投資家という家族には利益は発生していません。

流通市場は価値を生む場所ではないのです。しかも、取引をする際には委託売買手数料がかかりますから、現実的にはこの家族は三回の取引で手数料だけ損をしたということになります。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

三つの本音のうち①と②を優先して③の「できるだけ安全に」を犠牲にした取引は投機です。それにもかかわらず「危険だからできるだけ短期で売買する方がよい」と多くの人が思っていることで知らず知らずに投機への道を歩んでしまうのです。投機で儲かったとしてもそれは「運が良かった」だけの話です。証券市場の現実を見据えて合理性のある運用をすることこそ投資で成功をする唯一の方法です。

投信選びは洋服選びのように

ゴールデン・ウィークも終わり、いよいよ夏も間近になっています。サラリーマンのAさん。洋服ダンスやクローゼットの中を見るとシャツ類はかなり半袖のものがそろっています。昨年、上着も薄手の紺色系の比較的地味なものを買いました。でも、もう少し明るい色のものが欲しいな。そう、思っ
て今年もっとカジュアルな上着を買うことにしました。できれば家で洗濯ができてしかも速乾性のもの
がいい。

そんなことを考えて週末に妻とデパートに行きます。迷うほどたくさんの上着があります。高価なブランドものからセールの商品まで選択肢があります。多すぎて迷ってしまいます。店員さんが寄ってきてあれこれと勧めてくれます。本当は自由に考えたいなと思っても、店員さんはべったりとくっついて離れません。

色々とお勧め商品を見せてくれるのですが、店員さんはAさんのクローゼットの中身も、何を求めているのかも知りません。高価なブランド物のジャケットを盛んに勧めるのですが、こちらの本音は「ちょっと高すぎる。もっと手頃でカジュアルなものでいい」なのです。でも、店員さんがあまりに熱心なので「フン、フン」と聞いていると、すっかりこちらがその気になったものと勘違いしたのでしょうか。ますます、営業活動がヒートアップしていきます。

しかし、ここでAさんの奥さんが救いの手を差し伸べてくれます。「あなた、欲しいのはもっとカジュアルで気楽に着ることが出来るものでしょ。ブランドものなど必要ないわね」、ホッとしたようなAさんに奥さんは、「こっちにもっと手頃なジャケットがあるわよ」と発言。Aさん、店員さんを置いて奥さんの見つけたジャケット類から一番、自分に合ったものを見つけ出しました。めでたし、めでたし。

もちろん、デパートにはブランド物のジャケットを買いに来る人もいます。少しフォーマルなものを探している人もきます。考えている価格帯もみんな違います。要するに色々なニーズに対応できるように品揃えを置いているのがデパートです。また、店員さんは商売ですからできれば利益率の高いものをお勧めしたいというのわかります。

長々とジャケット選びのことを書いたのは、これ、投資信託を選択するのと同じだからです。つまり、



長期投資仲間通信「インベストライフ」

どの投資信託が良いかは人によってみんな違うのです。クローゼットの中身がどうなっているか、そのなかで何が不足かということが洋服選びで重要なのもと同じで、すでにどのような投資信託を持っているのか、ポートフォリオ全体で見て何が不足しているのかが、投信選びの一番重要なポイントなのです。結論は、「何が良い投信か」は人によってみんな違う」ということです。あるジャケットが A さんには最適でも B さんには適していないのと同じです。最も大切なことは自分が何を必要としているかを明確にしてから、そのニーズに合った投信を選ぶことです。

グローバル投資の五つの理由

相変わらず株式投資というと日本株を対象に考える方が多いのですが、少なくとも「人生を通じての資産運用」を考えるのであれば、グローバルな株式投資は不可欠です。ここで「グローバル」というのは「日本も含めて世界全体」という意味です。つまり、外国株投資ではなく、日本も含めた世界全体、そして、同時に、日本も他の国と同じように取り扱うということです。今回はなぜ、グローバル株式投資が必要であり、かつ、魅力があるかについてまとめておきましょう。

第一の理由として、「人生を通じての資産運用」の目的は「購買力の維持＋アルファ」です。我々の日々の生活は世界中から供給される財やサービスによって支えられています。全世界の株式を買うということは、それらの生産設備を保有するということです。将来、インフレが起こり世界のどこかの企業にインフレ利得が発生したとしても、それら企業の株式を保有していればある程度、その利得を回収することができるでしょう。その意味で、先進国も新興国もすべてをカバーするグローバル株式インデックス・ファンドは実に手軽、かつ有効な投資商品です。

第二の理由は世界経済が今後も人口増加を続け、発展途上国を中心として生活水準が向上し、さらにグローバルなインフラ整備や技術革新が起こるだろうという点です。これらは世界経済の数量成長をもたらします。世界経済の成長の担い手は全世界の企業です。それらの企業を保有することで購買力維持と同時に「＋アルファ」の数量成長を享受することができます。

三番目の理由として海外の主要企業は概して日本の企業よりも収益率が高い点が挙げられます。色々な統計がありますが、株主資本利益率(ROE)を比較しても日本は主要国の半分ぐらいという結果が多いようです。株主資本利益率は株主の資金が何パーセントの利益を生み出しているかという指標です。つまり、海外企業に投資された1万円は日本企業に投資された1万円よりも大きな利益を生むということなのです。

そして、四番目として海外企業は概して株主を大切にするという点が挙げられます。株主は企業活動を行う上で不可欠の資本の出し手です。もちろん、長期的に成長するためには顧客や従業員を大切にすることは重要です。まさに、持続的成長こそ長期株主が経営者に期待することです。し



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

かし、同時に株主が正当なリターンを得ることも重要です。その点の意識が海外企業は非常に高いと言えます。

最後は分散効果という側面です。世界全体はなだらかな成長をするにしても国によって景気循環は異なります。それを反映して株式市場のパフォーマンスも違った動きになります。全世界をまとめて保有することで国ごとのばらつきが相殺され安定的な資産の成長を図ることができます。これらの点から少なくとも「人生を通じての資産運用」にはいまやグローバルな視点が不可欠になっていると思います。